

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月一回のフロア会議や日々のちょっとしたミーティングにて利用者一人一人が生き生きと暮らしていただくためにどのようなケアが必要かを話し合い、実践につなげている。	理念の「その人らしくいきいきと」を実現するために常に「ゆったり、一緒に、楽しく、豊かに」を介護の基本として、年をとり思う通りにいなくなってきた入居者が「よかった」と思える人生のために、ことあるごとに理事長と職員は話し合いをしている。理念にそぐわない対応があれば「入居者にとってどうだったのか」とホーム長が個別に話をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に加入し、回覧板を回していただいたり、三九郎や夏祭り、文化祭などの行事に参加したり、散歩や買い物に出かけ、地域の方々と挨拶を交わしたり、野菜や果物、鉢植や切花、タオルなどをいただいたりしている。利用者が手作りの雑巾を近くの幼稚園に届けに行った。	自治会へ加入しており自治会費を払い回覧板も回ってくる。幼稚園、小中学校との交流も活発に行われ、小学校の夏休みのラジオ体操が駐車場で行われている。中学のボランティア委員会の窓拭きや「こまくさ祭り」の手伝い、職場体験なども受け入れている。その他にも多種多様なボランティアが来訪している。訪問調査時には近隣から見事な大きい大根が沢山届いた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小・中学校の職場体験学習や福祉の職場体験事業、実習生の受け入れを積極的に行っている。また、施設長が発案し、地域包括支援センターに働きかけ、認知症講演会と相談会を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前年出席者をお呼びし継続性も重視。消防の方に地震の対応についての話を伺い、災害時の対応を地域の方々で話し合った。避難訓練時、地域の方々にも一緒に参加していただけるようになった。また、中学校からの要望で、中学校の総合学習の一環として、グループホームでの実習を通しての交流が行えた。	入居者代表、家族、地域住民、市職員などが参加して2ヶ月ごとに行われている。地震対応など世の中の流れに沿ったテーマを決めており、幼稚園や小中学校の先生、消防署員、交番所長等に参加していただき活発な意見交換を行なっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護相談員が2～3ヶ月に一度来訪し、利用者や職員と交流を図っている。運営推進会議に出席していただき、グループホームの実情やケアの取り組み等を伝えている。認定更新や変更申請の機会に市町村担当者との連携を深めている。地域包括支援センターの職員が研修に来ている。	法人として近くに開設された地域包括支援センターと連携し、包括職員も研修に来ている。施設長も認知症サポート医として市の講演会や相談会に出席している。介護相談員も2～3ヶ月に一度来訪している。近くに住む独居のお年寄りの件で市のケアマネジャーに相談をかけたこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵は開いている。屋上やベランダに出て気分転換を図ったり、エレベーターで1階に下りたり、鍵をかけない自由な暮らしを支援している。フロア会議やミーティングの際、身体拘束につながるケアをしていないか、ケアを見つめ直している。	全員参加のフロア会議や毎日の申し送りの時に職員間で話し合い意識づけをしている。屋上やベランダにも自由に入出入りしていただいたり、エレベーターで1階のロビーへ降りたり、4階の居室へ上ったりしていただくなど自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	採用時研修において、高齢者虐待防止関連法に関する勉強会を行っている。フロア会議などで虐待につながるようなケアを行っていないか話し合っている。		

グループホームこまくさ野村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	採用時研修にて、権利擁護に関する勉強会を行った。 成年後見制度のチラシを玄関に置き、家族等に情報提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、看取りや医療連携体制等について時間をかけ、詳しく説明を行い、利用者や家族の不安や疑問点を解消できるように努め、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会などで、利用者や家族の意見や要望を伺う機会を設け、そこで出された意見などをフロア会議などで話し合い反映させている。家族来訪時には、現状報告をすつとにも、家族の思いなど聞く機会とし、何でも言い易い関係作りを努めている。年一回家族アンケートを実施し、家族の意見や要望等を伺う機会としている。	家族の来訪は週2～3度、2週に1度、月に1度とそれぞれの事情で様々である。入居者が具合が悪いと食事の介助に毎日来訪する家族もいる。年1回の家族会は家族間の話が出来、「今まで不安に思っていたことも解消する」との家族の声が聞かれるほど好評である。年1回家族アンケートを行い家族の意見・要望を運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃からコミュニケーションを図り、問い掛けたり、意見や考えを聞き出している。また、フロア会議やミーティングの中で意見や要望、提案を聞くようにしている。また、個別に話す機会を設け、業務上の相談等に対応している。	月1回のフロア会議では入居者一人ひとりの状態や課題、ケアプランなどを確認し合い、評価もを行っている。職員も積極的に話し合いに参加し、新人の意見も大切にすり取り入れている。理事長も普段の様子を見ながら折にふれ言葉がけをし、遅番や夜勤の職員との個別の話し合いもしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者も現場に来て、利用者と過ごしたり、個別に職員の業務や悩みを把握するよう努めている。年数回自己評価を行い、職員が向上心を持って働けるよう働きかけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしている。また、参加した研修報告は法人リーダー会議で伝達講習し、研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームへの見学や研修、事例検討などを通して他事業所との交流を持ち、質の向上に励んでいる。同法人のグループホーム同士でも、リーダー会議や運営推進会議を通して、情報交換を行っている。		

グループホームこまくさ野村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用について相談があった時、利用者、家族と必ず事前面談を行い、心身の状態を把握するよう努め、ご本人の希望や不安を理解し、安心していただけるよう工夫している。利用者によっては、入居予定日以前から、ショートステイ利用時にホームに来ていただき、安心していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族には入居前にグループホームの様子を見ていただき、グループホームとしてどのような対応が出来るのか、事前に話し合っている。また、今までの家族の苦労やサービス利用状況などじっくりお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話をよく聞き、必要であればケアマネジャーや包括支援センターに繋げるなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は、一緒に暮らす仲間として、こだわりや哀しみ、不安、喜びや楽しみなどを共有し、支え合える関係作りに努めている。また、煮物や漬物等の料理や畑仕事、お碗拭き等様々な場面で教えていただく機会があり、一人一人の得意分野で力を発揮していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の日頃の状態をこまめに報告、相談すると共に、誕生日会に参加していただき、一緒に関わっていただく場面作りをしている。敬老の日には家族が来訪され、演芸を披露して下さった。絵手紙や写真を送ることで、家族との関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの床屋、美容院、歯医者へ行かれたり、お墓参りへ出掛けたりしている。友人、知人、兄弟姉妹、親戚等の来訪や電話の取り次ぎなど馴染みの関係が継続できるように支援している。	定期的に来訪する友人やひ孫の七五三の着物姿を見せに来る孫の姿もある。お盆、お正月に泊まりや日帰りで家に帰られるが、長い入居の方は自宅の認識が出来なくなり、ホームに帰り「にっこり」と良い顔をされるという。その方にとってホームが一番の居場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、皆で一緒に楽しむ時間を作ったり、一人一人が役割を持ち、その活動を通して利用者同士の人間関係が上手にいくよう配慮している。		

グループホームこまくさ野村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事にお誘いしたり、広報誌など継続した関係作りが行えるように心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、表情や言動などから本人の思いを汲み取るように努め、確認できない方には、家族などから情報を得て、本人の視点に立って話し合っている。	殆どの入居者は思いを表すことが出来る。職員を「ちょっと、ちょっと」と呼び、心の中の気になることを吐き出すのに1時間ほど話にお付き合いし、入居者がすっきりした様子になるまで気長に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴や生活環境、馴染みの暮らし方、性格などの把握に努めている。また、他事業所からも利用時の様子など教えてもらえるように連携を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、その方が今、出来ることに注目し、その方の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族との日々の関わりの中で思いや要望を聞き、介護計画を反映させるようにしている。また、フロア会議や日々のケアの中で、職員間で意見交換したり、モニタリングやカンファレンスを行っている。	入居者、家族から思いや希望を聞き、担当職員が暫定プランを作成し、フロア会議で話し合い介護計画が作成されている。家族に報告し了承を得ている。毎日評価を行い、3ヶ月ごとに見直しをしている。状態が変化した場合には新たな介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・水分量・排泄等、身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉や気づきを具体的に記録し、いつでも全職員が確認し、情報を共有して、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院の付き添いや送迎、個別的な買い物の支援など、必要な支援を柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努力している。		

グループホームこまくさ野村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域で安心して暮らし続けられるよう、警察、消防、教育機関、民生委員、近隣スーパー、薬局、包括支援センター、地域住民に運営推進会議へ出席していただき、意見交換、協力関係を築いている。本人、家族の希望により訪問理美容サービスを利用している。餅つき会などの行事の際、ボランティアの方々に来ていただき、協力関係を築いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。また、受診は希望に応じて家族付き添い、職員同行など柔軟に対応しており、いつでも相談できる関係となっている。歯科医、眼科医などの受診は基本的に家族同行の受診となっているが、不可能な時には職員が代行している。クリニックより訪問診察に来ていただくケースもある。	1階のクリニックがかかりつけ医となっている。朝、昼、晩バイタルチェックを記録し、毎日来訪する看護師が記録と入居者の様子を確認し、変化があればかかりつけ医の指示を仰ぐようになっている。定期健診もクリニックで行っている。眼科、歯科等に家族が行けない場合は了解の下、職員が付き添い受診後結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化や異常を見逃さないように努めている。体調や表情の変化等で気付いたことがあれば、速やかに看護職に報告し、適切な医療に繋げている。24時間いつでも看護師に相談できる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、利用者の情報などを医療機関に提出し職員も頻回に見舞いに伺うようにしている。ご家族とも早期退院に向け、相談や話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を伺い、最後の時をその人らしく送っていただけるよう医師、看護師、介護士で話し合い連携を図り対応している。開設以来3人の方を施設で家人とともに看取る事例を経験した。また、施設長の書いたこまくさ便りのコラムを読み日々研鑽している。家族会にて終末期への準備等について説明を行った。	入居者の状態に変化が生じた時点から家族に報告し、医師の指示で看護師、職員とで面談を繰り返し、看取りが行われている。クリニック院長の死生観を複合施設全体の広報誌のコラムや講話を通して職員も理解を深めている。平均年齢91.55歳を迎えたホームは終末期への対応をこれからの重要課題として捉えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	採用時研修で勉強する機会を設けている。また、フロア会議やミーティングの場で、実際に起きた事故の対応や、予測される事故や急変についての対応を話し合い勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署や地域住民の方々の協力を得て年2回避難訓練、消火器の使い方などの訓練を行っている。運営推進会議において地域の協力体制の必要性を呼び掛けた結果、昨年度より避難訓練に地域住民の方々が参加して下さるようになった。	年2回消防署や地域住民の協力で避難訓練、消火器の使い方訓練等が行われている。そのうち1回は夜間想定避難訓練として行われ、ベランダか屋上に避難するようにと消防署との話し合いでも指導された。訓練の結果を踏まえ、職員の連絡網が確実に機能する方法を検討している。スプリンクラーや防火設備等も整備されている。	

グループホームこまくさ野村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを尊重しながら、職員は人生の先輩として尊敬する姿勢を持って接している。さりげないケアを心掛けたり、慣れ合いのケアにならないよう気をつけたり、自己決定しやすい声掛けをするように努めている。また、利用者の尊厳や個人情報保護の理解の向上に努めている。	入居者と職員の生活が長くなると馴れ合いから職員は気づかなくても言動に尊厳を犯したケアになりがちとなるので、ホーム長、職員はお互いに好ましくない言動について注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの状態に合わせて声を掛け、答えやすく選びやすいような支援をしている。些細なことでも自分で決める場面作りを心掛けている。表現が困難な方に対しては、表情や行動などから本人の意向を汲み取り、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの体調に配慮しながら、一人ひとりのペースを大切に、その日その時の気持ちを尊重し、その人らしく生活が出来るよう支援している。また、本人のサインを読み取り、休息場面を作るなど個別対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方が好きな色の服や髪形や帽子、毎日のお化粧品等、その方の個性に添った支援を心掛けている。また、馴染みの床屋や美容院へ出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で収穫された野菜などで煮物や漬物を調理したり、利用者に馴染みの料理や好きな料理を作ったりしている。食事の準備や後片付けは出来る範囲で職員と一緒に楽しみながら行っている。	刻み食などの入居者が「美味しそう、食べたい」との思いを実現できるようにとソフト食が提供されている。訪問時、青菜のお浸しのゼリーや金平のプリンを食していた方がいた。ラッキョ、梅干、奈良漬、かりん、野沢菜などの漬物もホームで漬け、畑でつくった夏野菜の収穫もあり、職員と一緒に楽しく調理も行なっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を使用し、食事量・水分量の把握に努めている。また、個々の嗜好や状態に合わせた食事を提供できるようにしている。月一回栄養士が訪問し、一緒に食事をしながら利用者の希望、要望を聞いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの能力に応じた対応を行っている。特に就寝前の口腔ケアは、その重要性を理解した上で確実に行っていただけようように支援している。		

グループホームこまくさ野村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンを把握する事で、その方に合った排泄ケアを行っている。自尊心に配慮しトイレでの排泄を大切にしながら、パンツ、パッド類も本人の状態に合わせて検討している。	排泄チェック表を参考にしながら布パンツにパット、夜だけのポータブル等、自尊心を傷つけないように入居者の行動や表情を見ながらさりげない支援に心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使用し、水分補給や繊維質の多い食材や乳製品などを食事に取り入れるなどして、便秘を予防し、出来るだけ自然排便できる工夫をしている。また、散歩や体操等体を動かす機会を作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者のその日の希望を確認し入浴していただいている。入浴を拒む利用者に対しては、言葉掛けや対応を工夫し、利用者一人ひとりに合わせた入浴を心掛けている。男性職員の入浴介助など羞恥心に配慮し、女性職員が対応したり、相性の合わない職員への対応に関しては、別の職員が声掛けたりして対応している。	一人ひとりの個浴で何時でも入浴は可能であるが1日おきか2日おきに入浴している。入浴を拒む方には時間をずらしたり、職員を代えて支援している。季節の菖蒲湯、ゆず湯、冬の乾燥を防ぐ入浴剤も使用している。家族と温泉地に泊まる入居者もいる。紅葉狩りの帰りに立ち寄り足浴なども楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中散歩に出かけ日光を浴び、生活リズムを整え、夜間の安眠につなげられるように心掛けている。また、眠れない方には話をしたり、温かい飲み物をお出ししたり、足浴を行う等の対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者別に服薬ファイルを作成し、全職員が把握できるようにしている。服薬は個別に対応し、内服出来ているか確認している。処方の変更や追加があった時は個人記録や申し送りノートに記録したり、ミーティングで話をしたりして状態変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事柄を活かせる場面作り、役割など生活に定着している畑仕事、台所仕事、漬物、縫い物、編み物、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、鉢植えの水くれなど利用者の経験や知恵を発揮する場面を多く作り、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気や利用者の状態などに応じて、一人ひとりが季節を感じ外出を楽しめるように公園や買い物などに出掛けている。午前中の散歩は日課になっている。回転寿司やそば屋などに行ったり、岡谷の足湯に出掛け、楽しんでいる。	天気の良い日には車椅子、シルバーカー、杖などで複合施設の周りを散歩することが日課となっており、近隣の方からお花を頂いたり、ホームの畑からミニトマトを収穫し座って食べることもある。お花見、アジサイやバラ見学、紅葉狩り、外食にも出かけている。歩ける入居者は階段を利用し、筋力低下防止に取り組んでいる。	

グループホームこまくさ野村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、小額のお金を手元に持っている利用者もあり、買い物に出掛けた際、移動パン屋さんやおやき屋さんなどが来た際に、利用者が直接支払ったりする事で、安心感や満足感が得られるよう配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望で本人が家族へ電話をかけたり、家族からの電話を取り次いだり、プライバシーに配慮しながら個別に対応している。家族と絵手紙や年賀状などの交換が出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとっての馴染みの物、生活感や季節感のあるものを配置し、家庭的な雰囲気作りに努めており、居心地よく過ごしていたけるよう工夫している。	居間から廊下続きの屋上へ出ると市街地やアルプスが一望でき、季節ごとの行事として焼肉やたこ焼きパーティー、夏祭り、餅つきなどをそこで楽しんでいる。居間には沢山の観葉植物が並び、壁には入居者の作品が飾られ、理念が書かれた色紙も額装され芸術品のように飾られている。一段高くなった量のスペースにはこたつもあり、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには畳スペースやソファがあり、廊下や屋上には椅子を置き、ひとりで過ごしたり、仲の良い利用者同士がくつろげるスペースがある。冬は畳スペースにこたつを置き、くつろぎスペースの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具(タンスや茶タンス)、テレビや寝具などの品々が自由に持ち込まれ、利用者一人ひとりの居心地の良い空間作りに努めている。家族の写真や思い出の写真など飾られている方もいる。	居室は全て日当たりの良い南側に面していてベランダと洗面台が備わっている。慣れ親しんだ筆笥の上には家族の写真を飾り、テレビも置かれ居心地の良い居室となっている。入り口には各入居者の思いの暖簾がかかり、暖簾から自分の居室、誰々さんの居室と分かるように工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況に合わせて環境を整えている。失敗が生じた時は、失敗の原因を職員間で話し合い、本人のわかる力・できる力を見出し、出来る限り自立に向けた環境作りに努めている。		